

# 会 報

2011年9月15日発行

静岡県技術士協会・公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県技術士会  
事務連絡担当 長嶋 滋孔 Phone 0538-35-5014 / FAX 0538-37-4990 E-mail [eigyoubu-01@kyowaconsultant.co.jp](mailto:eigyoubu-01@kyowaconsultant.co.jp)  
会長: 吉田 建彦 専務理事: 長嶋 滋孔 会計: 五味 道隆 会報担当: 仁科 憲・日名地 輝彦  
会計振込先: 静岡銀行磐田支店 支店番号 321 普通 0980271 静岡県技術士協会 (会計 五味道隆)

## 2011年度 第一回例会開催

2011年7月15日(金)



写真-1. 集合写真(特種東海製紙株式会社 三島工場 社屋玄関前にて)

### 1. はじめに

第一回定例会は東部地区担当で、駿東郡長泉町にある特種東海製紙株式会社 三島工場の見学を計画いたしました。三島工場は特種東海製紙株式会社の中で特殊紙を扱う基幹工場であり、先進的な技術を有しております。また、大変珍しい種類の紙を生産しています。

今回は20名の会員が参加し、JR三島駅南口に集合後、タクシーに分乗し見学先を訪問いたしました。最初に会社と三島工場の概要説明をいただき、その後、工場内の製紙ライン(12号および13号抄紙機)およびエネルギー管理施設の見学をさせていただきました。

詳細について、以下に報告いたします。

## 2. 見学先の概要

特種東海製紙株式会社の沿革や概要について、特殊素材事業グループ 三島工場 事務部長 田邊 靖貴様(写真 2.)から、お話を頂きました。



写真 2. 三島工場 事務部長 田邊 靖貴 様

### 1). 会社紹介ビデオの上映

はじめに社員様が製作し、本年の株主総会で上映された会社紹介ビデオを拝見させていただきました。内容は、現在の会社の事業に対する取組み状況や社会の一員としての環境保全活動などについて紹介したものです。

大変分りやすく、時間も 15~20 分程度でちょうど良くまとめられていました。このビデオは社員の有志で製作されたものをご紹介いただきましたが、日頃の生産や品質改善活動を思うと、時間の捻出に苦労されたことが窺えました。

### 2). 事業内容について

特種東海製紙株式会社と三島工場の会社案内を頂き、現在の最新状況を反映した資料と併せて説明を頂きました。会社の事業としては、用紙の用途に応じて 3 つの事業に仕分け、展開しているとのことでした。具体的には、特殊紙、産業用紙、生活商品(家庭紙)の 3 事業で、その

うち産業用紙が売上げの半数を占め、残りは特殊紙と生活商品で売上げを分けている状況だそうです。各事業の代表的な生産品を会社案内より抜粋し、以下に紹介いたします。

事業内容	生産品目
特殊紙	ファンシーペーパー
	情報用紙
	工業用紙
産業用紙	段ボール用紙
	クラフト紙
	加工原紙
生活商品	ペーパータオル
	食材紙
	トイレットペーパー

このような事業展開の中で三島工場は特殊紙の生産や開発を担っているとのことでした。具体的には、圧着ハガキ用紙やMICR用紙(手形・小切手用紙)などの情報用紙が挙がり、設備を含めて開発し、商品化に成功した例として、偽造防止用紙の説明がありました。当日の説明で話題になった製品を、以下に紹介します。なお、この写真は特種東海製紙工業株式会社のホームページ掲載写真を転載させていただきました。



写真 3-1. 医用包装材(滅菌紙)



写真 3-2. 耐油紙 (NF 耐油紙)

### 3). 会社沿革

2007年に東海パルプ株式会社と特種製紙株式会社が経営統合し、「特種東海ホールディングス株式会社」を設立し、2010年に特種東海製紙株式会社に社名変更したとのことでした。また経営統合する前の、それぞれの会社の創業者についても話が及びました。

特種製紙株式会社は1926年(大正15年)に佐伯勝太郎博士によって設立されました。佐伯博士は26歳で印刷局抄紙部長となり、日本の紙幣用紙や政府所管用紙の製造責任者を務めた方です。



写真 4-1. 初代社長 佐伯勝太郎 博士

一方、東海パルプ株式会社は1907年(明治40年)に東海紙料株式会社として大倉喜八郎男爵により設立された会社です。大倉男爵が設立や設立に関わった企業は、帝国ホテル、ホテルオークラ、大成建設などがあります。



写真 4-2. 創業者 大倉喜八郎 男爵

### 3. 工場見学

2班に分かれ、12号および13号抄紙機とエネルギー管理施設を案内していただきました。工場内は3Sが行き届いており、用紙の製造過程で発生する埃なども定期的に清掃しているとのことでした。エネルギー管理については、電気事業法第27条による電気の使用制限の発動に伴う対応に苦慮しているとのことでした。

見学後は、「紙に関する総合的なコミュニケーションの場」として開設されたP a m三島を見学し、貴重な収蔵品や紙の歴史などについて説明を頂きました。



写真 5. P a m三島(一般非公開)の見学

### 5. おわりに

ご多忙の中、私どもの見学依頼を快く受け入れていただきありがとうございました。心より感謝いたします。

## 第 31 回 産官学と技術士との合同セミナーについて

### 1. はじめに

本セミナーは昭和 54 年に科学技術庁が、技術士制度の普及促進等を目的に企画した「地方公共団体職員と技術士の合同セミナー」が始まりです。その後、変遷を重ね、年度毎に 3 支部で実施することとなり、各支部内においても開催地を変えながら地域に密着したテーマを掲げて開催するようになりました。本年度は中部本部が開催支部のひとつであり、静岡県にて開催することとなりました。

### 2. 合同セミナーのテーマ

本年 3 月 11 日発生した東北地方太平洋沖地震により、死者、行方不明者が 2 万数千人に達する東日本大震災が発生いたしました。一方で、静岡県は東海地震の発生が予測され、大規模地震対策特別措置法(1978 年制定)による警戒が必要な地域に指定されています。また静岡県技術士協会は昨年 6 月に静岡市と「災害時における市民への復興まちづくりの助言に関する協定書」を締結しました。<sup>(1)</sup>

以上のことを背景に「静岡県内の危機管理」について県内において活躍されている方々にその一端をご紹介いただき、今後どのように技術士や公益社団法人 日本技術士会が連携していくべきかを参加者の皆さまと共に考えたいと思います。

### 3. 開催内容

開催日 2012 年 1 月 21 日(土)

開催時刻 (13:30~17:30)

開催会場 静岡労政会館

講演内容

- ・近年の豪雨災害と災害情報をめぐる  
課題

静岡大学防災総合センター

副センター長 牛山素行 准教授

- ・静岡県の危機管理

静岡県危機管理局

岩田孝仁 危機報道監

- ・静岡市の危機管理

静岡市危機管理部

石原防災対策課長

- ・災害時の企業 BCP

IST コンサルティング

石井洋之 代表

会場と講演者との質疑応答

コーディネーター 静岡県技術士協会

復興協力委員会委員長 木村芳正会員

本セミナーは 1 2 月に予定しておりました第 3 回例会に代わるものであり、詳細なお知らせと申込み案内は 1 1 月には配付します。大震災後、技術(者)の社会貢献が問われている時期です。多くの方々の参加が望ましく、ご予定のほどお願いします。

## 社団法人日本技術士会 中部支部 第 53 回定時総会

2011 年 5 月 21 日に社団法人日本技術士会中部支部の定時総会が名古屋国際センター別棟ホール(写真 6.)で開催され、当協会からは

吉田会長、日名地会員と新会員の藤沢友弘会員が出席しました。社団法人としての総会は今年が最後となります。

## 新会員紹介



氏名 藤沢 友弘 (フジサワ トモヒロ)  
生年月日 1967年 1月 29日  
入会日 2011年 6月 20日  
技術部門 化学(技術士)  
選択科目 セラミックス及び無機化学製品  
勤務先 FDK株式会社  
自宅 浜松市

## 新賛助紹介



We walk together  
**昭和設計株式会社**

入会日 2011年 8月 16日  
名称 昭和設計株式会社  
所在地 静岡県静岡市葵区安東 2丁目 15番 13号  
代表者 代表取締役 根元 健  
電話番号 054-245-6012 FAX. 054-247-6634

## 会計担当より

平成 23 年度の年会費をお支払い頂けない会員がお見えになります。以下の口座へお振込頂きますよう強くお願い申し上げます。

取引銀行	静岡銀行 磐田支店(321)		
口座名義人	静岡県技術士協会		
口座番号	0980271		
一般会員	¥8,000-	名誉会員	¥4,000-

## 編集後記

早いもので、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震から半年が経過しようとしています。今回の大震災に際し、国土交通省の東北地方整備局（以後、東北地整と記す）の活躍をお存知の方がどれくらいいらっしゃるでしょうか。発災後、東北地整では直ちに情報を収集し、国道45号線をはじめとする沿岸道路が津波による大きな被害を受け使用不可能と判断し、内陸部の東北自動車道、国道4号線を南北の縦軸とし、そこから東に向かい各都市への連絡通路（16ルート）を開く「くしの歯」作戦をたてました。その後、地元の建設業者と協力し、3月12日には南北の縦軸と「くしの歯」である東へ向かうルートの内11ルートの啓開を終了し、3月18日には全てのルートと海岸沿いの国道45号線の97%の啓開を終了し「くしの歯」作戦は終了しました。

この「くしの歯」作戦にあたった東北地整と建設業者の不眠不休の活動により、道路が啓開され、その後の自衛隊の救援活動、救援物資の搬送が比較的順調に行われたのはまぎれもない事実です。今回の震災と救援状況の報道をみると、被災地（者）の悲惨な状況と美談、政府の対応の不備に関するものが目立つように感じられます。しかし「くしの歯」作戦にあたった東北地整や建設業者等の（技術者の）陰の功労者を正當に評価するような報道はほとんど見られなかったことは残念です。

今回は、第一回の例会の内容を中心に編集いたしました。また、7月23日に発生した中国高速鉄道の事故によって与えられた日本のダメージについて、解説いたしました。どのようなテーマでもかまいません。原稿を募集いたしますのでご応募ください。（会報担当：日名地輝彦，仁科憲）



「くしの歯」作戦の概要